

平成 22 年度 事業報告書

大慈あんしんすこやかセンター

1. 《法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①地域包括支援センターは、介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」であるため、公正で中立性の高い事業運営を行う。
- ②地域の介護サービス提供体制を支える中核的な存在であるため、当該地域の特性や実情を踏まえた柔軟な運営を行う。
- ③主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師の専門職員が配置されているが、職員相互が常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の事務体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく。

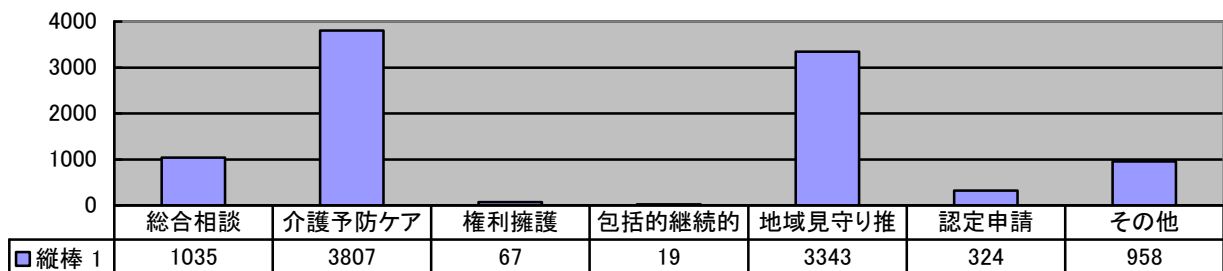
3. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

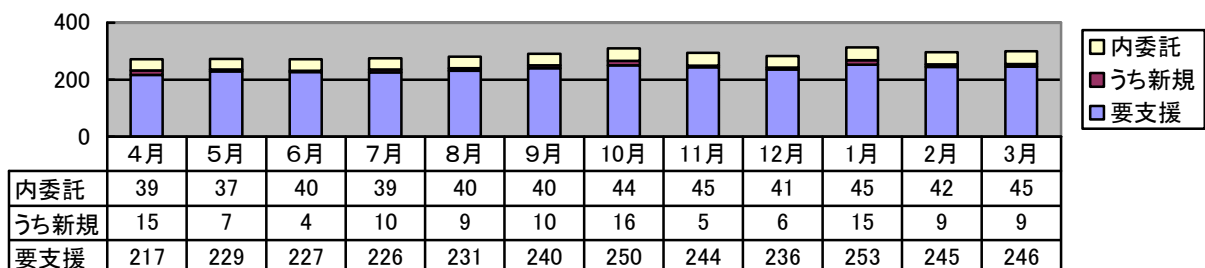
請求合計 2844 件 前年比 285 件増 (内委託数 497 件 前年比 33 件増)

月平均は 237 件 (前年 213 件) で昨年と比べ増加している。新規ケースの給付管理数は、月平均 9.5 件。こちらも同様に増加している。

相談対応実績



介護予防ケアマネジメント請求数



4. ≪目標に対しての報告≫

①事例が困難化する前に問題を解決する。地域との綿密な関わり等早期に解決する為のシステムづくりをする。

(各職種の具体的な行動計画)

職種	活動内容
主任ケアマネ	各ケアマネージャーを含め、各支援者が活用しやすいネットワークづくりを行う。
保健師	医療機関とのネットワークづくり。
社会福祉士	メディカルソーシャルワーカー・ソーシャルワーカー・他区のあんしんすこやかセンターの社会福祉士とのネットワークづくり。
見守り推進員	民生委員・自治会・老人会・ふれあいのまちづくり協議会・住民棟代表・NPO・ボランティア団体との連携強化、LSA とあんしんすこやかセンターとの連携強化

→民生委員や自治会とは密な情報交換をする事により、地域の問題や困難な事例に対して迅速にセンター職員が関わる事ができた。

②介護予防支援を行っていく上で、ゲストが意欲を持って地域の中で生活していけるよう介護保険サービス以外のインフォーマルサービスにつなぐ。

→既存のインフォーマルサービスの把握はできているが、新たなインフォーマルサービスの活用はできていない。市営住宅自治会にて助け合いが発足しているが積極的な活用には至っていない。

③現行の介護予防教室の開催に加え、オープン予定の井吹台北町のコミュニティ活動拠点を通じて実態把握を行い、コミュニティ作りをする。

→地域でのセンター行事に関しては地域住民の楽しみとなっている。特にうたごえ喫茶とゆいちゃんクッキングクラブに関しては地域のボランティアに協力をしていただき、参加者からも好評を得た。又、9月より、NPO 法人「ニューいぶき」と協力し、井吹台北町に建設されたマンション「フィレール西神南」において月に1度「ほんわか倶楽部」を開催。ニュータウンに新たに引っ越された方々の交流の場として折り紙の製作や体操等を行った。

④「あんすこルーム（ひろば 大慈 ゆい）」を通じ、高齢者の見守り活動と高齢者の相談受付業務を行い、適切な関係機関へ繋ぐ。

→オープンして1年が経ち、徐々にルームに相談に来られる方も増え相談があった際には適切な対応ができている。しかしオープン日が週3日と限定の為、地域住民の中からはいつも閉まっていると不満の声も聞こえた。オープン日の更なる周知・広報が必要かと思われる。

⑤定期的に高齢者向けの生活情報誌を発行する（年3回）。あわせて高齢者が集まる機会を通して総合相談窓口としてのあんしんすこやかセンターの広報をする。

→社会福祉協議会発行の「かきつばた」の裏面にはセンターの特色を活かした内容を掲載し広報はできたが、独自の広報誌の作成とまでは至っていない。

5. 《会議》

	会議名	
開催	あんすこ・ケアマネ会議(事業所内)	あんすこ単独会議(事業所内)
	あんすこ・居宅会議(事業所内)	西神地区ケアマネージャー連絡会
参加	リーダー会議(事業所内)	行事委員会(事業所内)
	マナーアップ委員会(事業所内)	感染症防止対策委員会
	見守り推進員連絡会	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	職種別連絡会(主任ケアマネージャー・保健師・社会福祉士)	
	各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)	

6. 《総括》

昨年度に引き続き、今年度も大慈あんしんすこやかセンターのモットーである『何事にもネットワークは軽く、親身になって、迅速な対応。』というセンター訓を皆が意識し年間取り組んできた。地域からの信頼もあり気軽に窓口相談に来ていただける雰囲気もできており、地域の方々や民生委員の来所も多く地域の相談窓口としての役割は担えていると思われる。平成21年度にオープンしたあんしんすこやかルームにおいても、高齢化の進む集合住宅の身近な相談窓口として、地域の方から様々な相談を持ちかけられるようになった。相談があった際には相談を受けた職員が独りで抱え込むのではなく、職員皆で情報を共有し、場合により行政機関と連携し対応をする事ができた。今後更に地域住民の高齢化も進んでいく為、センター職員一同で問題に取り組む姿勢を継続していきたい。

予防給付のケアマネジメントに関しては、昨年と比べても数が増えており特に新規ケースの依頼も増えている。原因としては圏域の住民の高齢化に加え、新たに宅地開発された井吹台北町へ、立地条件の良さから転居をされてくる方の増加が考えられる。

介護予防教室や仲間づくり事業においてはセンター職員が協働し、地域の方々に興味を持っていただける内容を実施する事ができた。特に今年度は、あんしんすこやかルーム独自の事業として「うたごえ喫茶」と「ゆいちゃんクッキングクラブ」を立ち上げ好評を得ている。これに関しては、地域のボランティアがとても頑張ってくださり、理想的なコミュニティサポート事業として活動ができていると思われる。また、井吹台北町においても住民の仲間づくりの一環としてNPO法人ニューいぶきと協力し、新たなコミュニティサポート事業を行う事ができた。